

宮津市立宮津小学校

京都府宮津市
設計・監理／東亜設計
施工／金下建設
miyazusyougatukou
touasekkei



大手川に架かった橋からみた西側外観

宮津市の明日を創る子どもの学舎

ー 設計の経緯

宮津市は、京都府丹後半島の東南端に位置し、北は若狭湾を見渡し、南は大江山を望む丹波山地を控え、海あり山ありと自然に恵まれた環境にある。また、近年は高速道路の整備が整い、世界遺産登録を目指す天橋立を中心とした観光のまちである。宮津小学校は市内の小学生の約半数が通学するシンボリックな存在であり、歴史的にみても宮津藩の城下町として栄え、国の重要文化財である『旧三上家住宅』など江戸時代からの建造物も現存している。校内には「天橋義塾跡」や「太鼓門」などの史跡もある。本改築計画は、北校舎（昭和35年RC3階）、管理棟（昭和36年RC3階）、南校舎（昭和53～54年RC3階）、体育館（平成22年S1階）が現存しており、耐震改修済みの南校舎と体育

館は耐震性能を満たしていた。しかし、北校舎および管理棟は耐震性が低い状態である。昭和30年代には児童数が約2,000人を超え、クラス数も40を超える状態であったが、現在（平成26年度時点）は過疎化と少子化で児童数が約460人、クラス数は20となっている。このような状況を踏まえて、北校舎と管理棟の機能を1棟にまとめる形で新校舎を建設する機運が高まった。設計にあたり、『安心安全な校舎』『宮津の歴史や伝統を感じさせる校舎』『地域に開かれた校舎』等を改築のコンセプトとして、〈宮津小学校校舎等改築検討委員会〉を立ち上げ、学校関係者、保護者代表、地域の代表者、福祉関係の関係者、行政関係者、設計者で検討を重ねてきた。

ー 長方形形状の計画地への配置計画

正門・太鼓門のある前面道路（西面）と体育

館および南校舎の距離が約30mしかない敷地形状への配置計画となり、将来的に敷地北部分（現在、北校舎立地部）を駐車場にすること、また当該北校舎を新校舎完成後に解体計画があるため、限られたスペースによる計画となった。

ー 太鼓門を意識した全体計画

普通教室（3学年×3室）と特別教室として、音楽室、調理実習室、図書室、家庭科室を配置する。また、地域と連携した「放課後児童クラブ」「ことばの教室」を融合させる。管理部門は正門、太鼓門からのアプローチを意識した。多目的ホール、普通教室、昇降口を一体空間とし、『見せ柱』として校庭から南東、標高697mの杉山の中腹に自生していた樹齢270年、幹廻り2m50cmの『上宮津スギ（支給品）』も同空間に設置することにより、共に過去を学び成長していってくれる一助になればと思う。

ー 天井の杉半割丸太（京都府内産）

昇降口の天井面は鉄筋コンクリート構造の梁を表し仕上とし、下面に京都府内産の杉半割丸太で覆い、空間全体として『木質化』を表現している。

他に、外壁縦格子・内部吹抜部の縦格子・柱角見切・天井格子等にも京都府内産木材を使用している。また腰壁と床材も木質素材として、全体として暖かみのある構成とした。

ー 景観法と町並み

景観法により、外壁の素材、構造および仕上材を均一で単調にしないこと、勾配屋根にすることなどが規定されている。校舎の全体イメージは伝統に配慮した木調と白壁である。当初計画では、外部1階を杉板、2階以上部分を白壁とするイメージだったが、コスト面のこともあり、1階は吹付とし色調を合わせる形となった。環境に配慮したことは、屋上に太陽光発電を設置し、自然エネルギーの活用を積極的に行っている。1階の昇降口・多目的ホールにモニターを設置し、発電電力量がみてとれる。

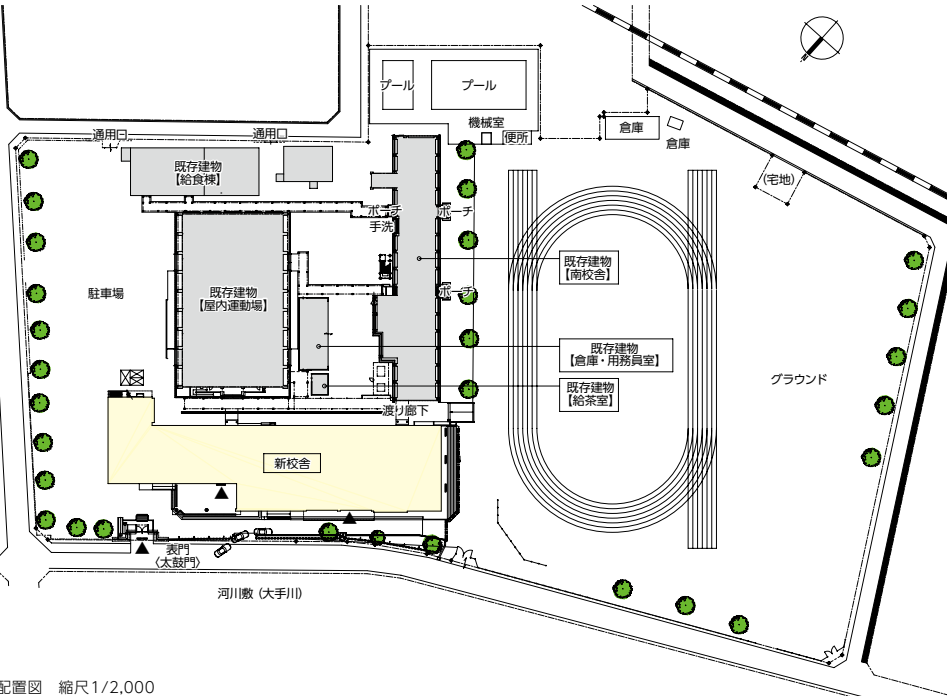
ー 終わりに

宮津市を代表する小学校にふさわしく、今後50年、100年と伝統を受け継ぎ、豊かな発想力と人、物、環境に優しい心を持った人材が育ってくれることを願っている。

（柴田昌孝／東亜設計）



柴田 昌孝……しばた まさたか
1961年京都府生まれ。1983年広島工業大学建築学科卒業、船場を経て1990年東亜設計入社。現在、同社企画設計室課長



配置図 縮尺1/2,000



上／西側外観 下／昇降口の夜景

断面図 縮尺1/1,000



昇降口（杉半割丸太および上宮津杉）



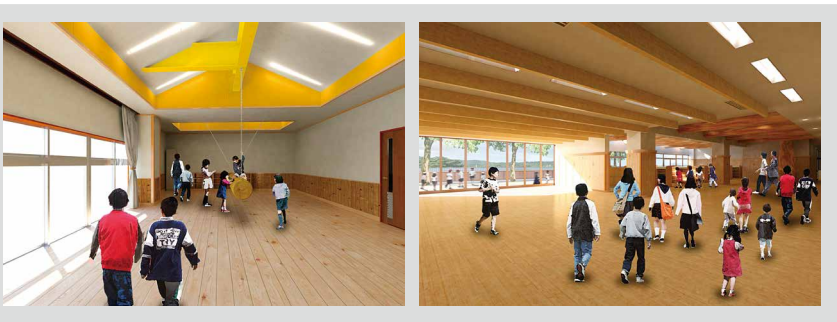
2階多目的ホール吹抜けを見上げる



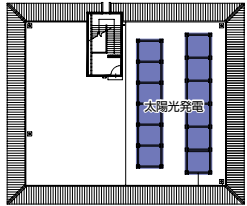
2階プレイルーム



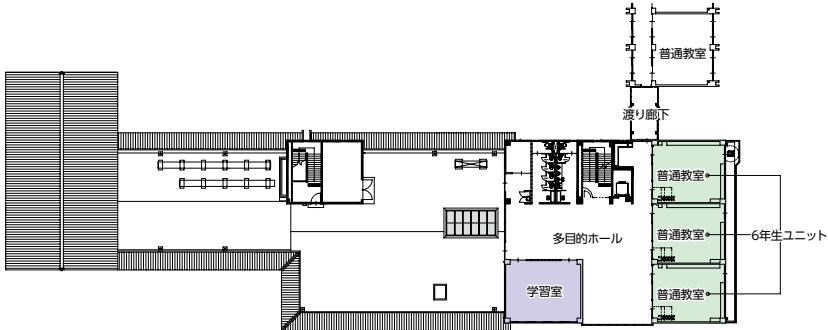
多目的ホール外観



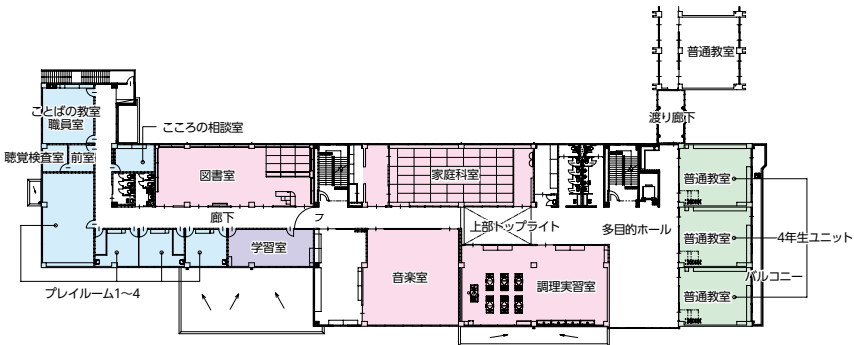
基本計画案



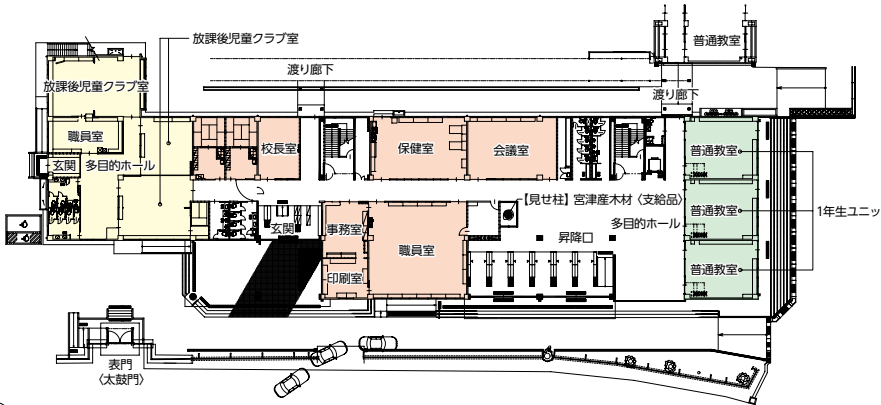
R階平面図



3階平面図



2階平面図



1階平面図 縮尺1/1,200

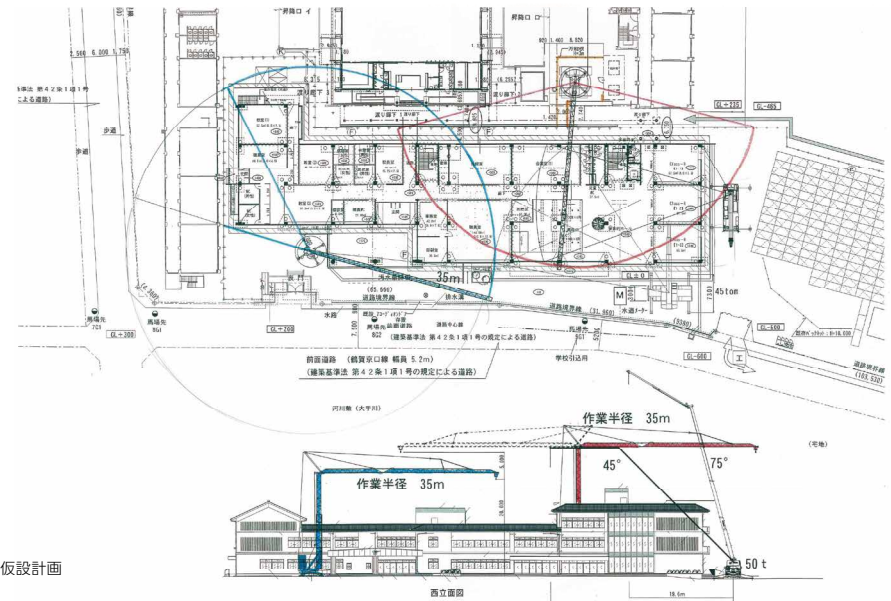
学習室 ことばの教室 放課後児童クラブ 管理部門 普通教室 特別教室

施工計画

本工事は、既存管理棟を解体し、新校舎を新築する工事である。

新築工事用地は、周囲は既存校舎で囲まれ

た細長い地形で、工事車両の搬入口が1カ所と制限されていた。ラフタークレーン等のアプローチが工事車両動線と重複することから使用することができないため、施工計画はタ



仮設計画

宮津市立宮津小学校 データ

所在地 京都府宮津市宇外側2508

主要用途 小学校

建築主 宮津市

設計・監理 東亜設計

担当／建築：柴田昌孝 構造：柴田昌孝、加藤栄治（栄構造） 設備：平野和敏、秦 千英 監理：柴田昌孝

施工

建築 金下建設

担当／奥野重人（作業所長）、吉岡喜作、山根由暉、青木軍磨、泉 皓章

電気 山添電気

担当／川村光時

空調・衛生 入柿工業

担当／石田秀和

設計期間 基本設計：2013年4月～2014年3月

実施設計：2015年10月～2016年3月

工事期間 2016年9月～2018年1月

【建築概要】

敷地面積 28,054.29㎡

建築面積 5,565.46㎡

延床面積 4,407.69㎡

建ぺい率 19.84%（許容60%）

容積率 33.60%（許容200%）

構造規模 教室棟：RC造 渡り廊下棟：S造 地上3階、

塔屋1階

地域地区 都市計画区域、区域区分非設定

ワークレーンを2基設置することにより、施工エリアをカバーし、搬入資材の動線を確保し、施工することとした。

本施工での難問は、地元の山で自生していた推定樹齢270年の天然杉を切り出して、玄関昇降口にモニュメントとして展示する作業であった。

山に入り、モニュメントとしてふさわしい杉を切り出し、一旦、製材所にて防虫処理を行ったうえで現場へ搬入した。

また、玄関昇降口の天井付梁も地元産の杉丸太を使用し、天然杉と同時期の搬入で取り付けした。

品質面においては、木材を多用した小学校に仕上げるため、化粧合板の腰板は松の無垢材貼、鋼製学校間仕切りは木製に各々変更し、府内産の付梁を多く使用した。

また、床はフローリング直貼り仕上げで、平滑度を向上させるためにモルタル仕上げからレベリング仕上げに変更した。

竣工した新校舎は、歴史や伝統を感じられるような和のデザインと木の温もりを感じられるものとなった。

（奥野重人／金下建設）



奥野 重人……おくの しげと
1954年京都府生まれ。1977年近畿大学理工学部建築学科卒業、同年金下建設入社。現在、同社建築部部門長補佐

【学校施設】

クラス数 各学年3クラス

特別教室 音楽室×1室、調理実習室×1室、家庭科室×1室、図書室×1室

特殊設備 太陽光発電

【主な外部仕上げ】

屋根 アスファルト防水（屋根露出防水絶縁工法：D-1）、断熱材下地

外壁 コンクリート打放し補修の上、可とう形外装薄塗材E吹付

建具 アルミ製建具

【主な内部仕上げ】

ホール、廊下 床／木質直貼床材 腰壁／檜羽目板t=12オスモククリアー塗装 壁／石膏ボードt=12.5EP塗装 天井／化粧石膏ボードt=9.5

音楽室 床／タイルカーペット 壁／木製（檜）H=100オスモククリアー塗装、吸音用穴あき石膏ボードt=12.5EP塗装 天井／化粧吸音石膏ボードt=9.5

トイレ 床／長尺塩ビシートt=2.0 腰壁／シーリング石膏ボードt=12.5、キッチンパネルt=3.0 壁／石膏ボードt=12.5EP塗装 天井／化粧石膏ボードt=9.5

撮影／砂田写真工房

協力会社

杭 工 事 ジャパン パイル